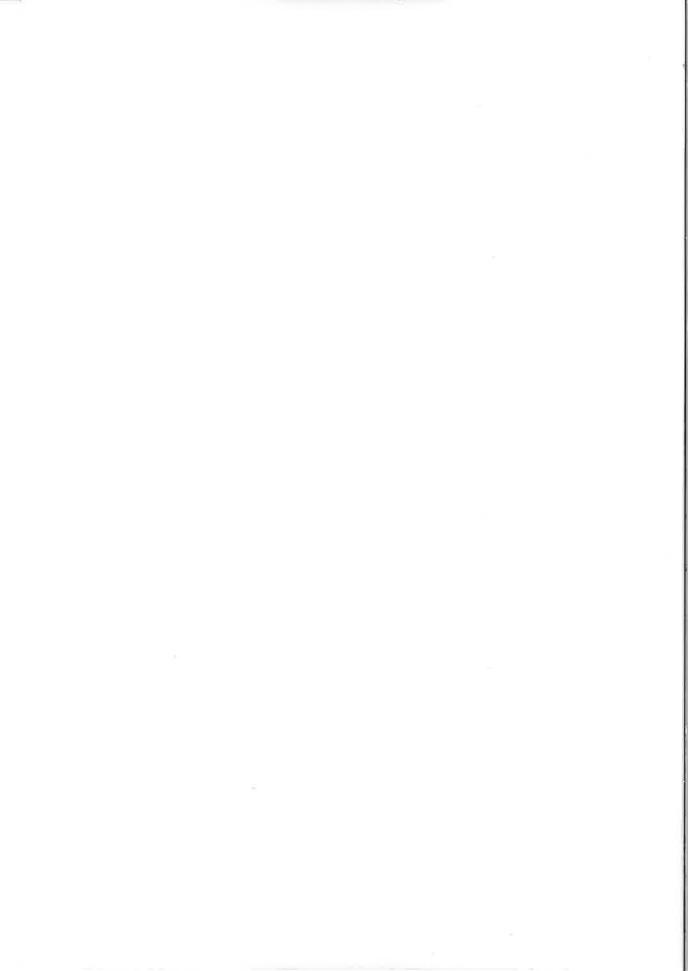
長崎県松浦市文化財調査報告書 第1集

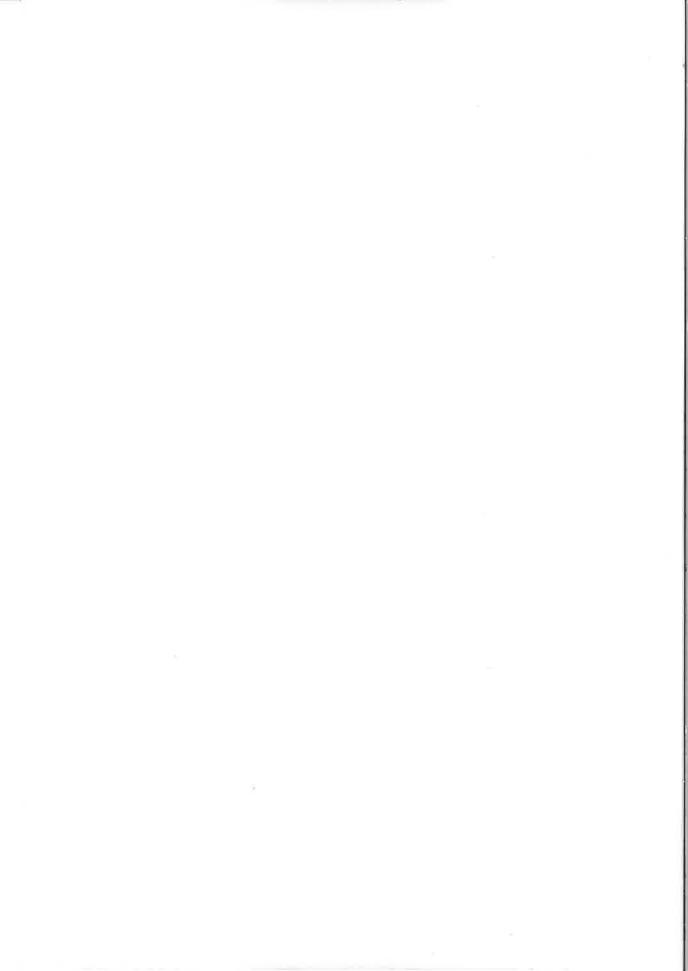
牟田池上遗跡

1984

長崎県松浦市教育委員会

題 字 松浦市教育長 呼子俊一





長崎県松浦市文化財調査報告書 第1集

牟田池上遗跡

1984

長崎県松浦市教育委員会



発刊にあたって

このたび、昭和58年度の国庫・県費補助を受けて松浦市星鹿町にあります牟田池上遺跡の範囲確認調査報告書を刊行することになりました。

松浦市星鹿町牟田は、黒曜石の原産地として、東隣の佐賀県 伊万里市の腰岳とともに古くから知られていましたが、本格的 な調査は行なわれていませんでした。本調査では多数の黒曜石 原石とともに、これらを加工した遺物も出土し、本市の古代文 化の解明に新たな資料を加えることになりました。

本報告書は、その調査結果についてまとめたものであります。 本報告書が今後行なわれる各種の調査に貴重な資料となるこ とを心より期待し、埋蔵文化財に対する認識と理解、さらには 学術・研究上の一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、今回の調査にあたり、ご指導をいただいた県文化課の先生方をはじめとして、御協力をいただきました関係の皆様方に深く感謝を申し上げまして、本調査報告書発刊のことばとさせていただきます。

昭和59年3月

松浦市教育委員会 教育長 呼 子 俊 一

例 言

- 1. 本書は、昭和58年度に実施した牟田池上遺跡の範囲確認 調査報告書である。
- 2. 調査は、昭和58年度の国庫補助および県費補助を受けて 松浦市教育委員会が実施した。
- 3. 発掘調査は、松浦市教育委員会が主体となり、社会教育 課の中田敦之が担当した。
- 4. 貝の同定は長崎県立長崎北高等学校教諭山本愛三氏にお願いし、「牟田池上遺跡の貝類から見た考察」と題する玉稿を賜わった。
- 5. 遺物の実測・写真撮影・トレースは中田が行なった。
- 6. 出土遺物は松浦市教育委員会が保管している。
- 7. 本書の執筆・編集は中田が行なった。

本 文 目 次

				頁
Ι	序	i 1	兑····································	~ 2
1	l.	調査は	こ至る経過	···· 1
2	2.	調査組	圣過····································	~ 2
${\rm I\hspace{1em}I}$	遺	は跡の地	b理的歷史的環境·······3	~ 7
1		松浦市	5の位置および地形	3
2		遺跡の)位置·····	3
3	3.	周辺の)遺跡3	~ 4
	発	掘調査	<u> </u>	~12
1		調査の)概要·····	8
2		土	層8	~10
3	ŝ	遺	構	10
4	*	遺物の)出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
IV	出	土遺物	ŋ13	3 ~ 21
1	<u>.</u>	土	꼾	13
2	•	石	器13	~15
V	牟	田産黒	曜石について・・・・・・・・・・・22	~28
VI	牟	田池上	- 遺跡の貝類から見た考察29	~32
				02
VI	ま	とめ…		33
<i>(</i>	مال	<i>h</i> /¤ ′¤	, la	

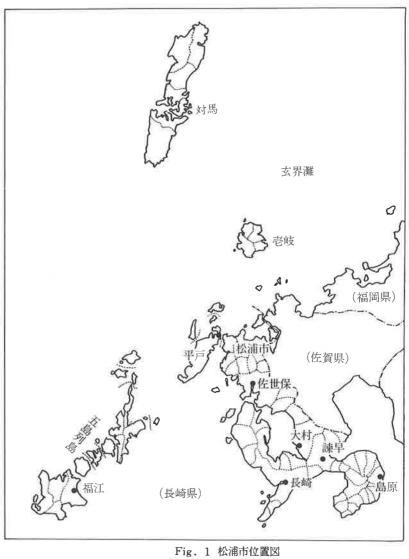
挿 図 目 次

Fig.	1	松浦市位置図
Fig.	2	遺跡の位置図(1/5,000)・・・・・・・・・・・・4
Fig.	3	周辺の遺跡(1/25,000)・・・・・ 5
Fig.	4	調査区設定図(1/1,000) 9
Fig.	5	畑地土層図(1/40)・・・・・・10
Fig.	6	畑地土層図(1/40)・・・・・・11
Fig.	7	水田部土層図(1/40)・・・・・・12
Fig.	8	土器実測図(2/3)17
Fig.	9	石器実測図(2/3)18
Fig.	10	石器実測図(2/3)19
Fig.	11	石器実測図(2/3)20
Fig.	12	石器実測図(2/3)21
Fig.	13	長崎県内の黒曜石原産地・・・・・・23
Fig.	14	黒曜石原石計測表24
Fig.	15	黒曜石原石重量表24
Fig.	16	牟田産黒曜石の分布・・・・・・26
Fig.	17	遺跡所在地29
Fig.	18	遺跡周辺立地図・・・・・・29
Fig.	19	遺跡周辺地形図30
Fig.	20	遺跡発掘現状図 · · · · · · · · 30
		表目次
		頁
Tab.	1	周辺遺跡地名表・・・・・・6
Tab.	2	出土石器一覧表16
Tab.	3	長崎県内の黒曜石原産地地名表・・・・・23
Tab.	4	牟田産黒曜石の出土遺跡・・・・・・27
Tab.	5	牟田池上遺跡の貝類を中心とする組成表31

図 版 目 次

		頁
PL.	1	牟田池上遺跡遠景(東側より)37
PL.	2	調査風景38
PL.	3	調査風景38
PL.	4	No 1 トレンチ土層状況・・・・・39
PL.	5	No 2 トレンチ土層状況39
PL.	6	No 4 トレンチ土層状況・・・・・・40
PL.	7	No 5 トレンチ土層状況・・・・・・・40
PL.	8	No12トレンチ土層状況······41
PL.	9	No20トレンチ土層状況······41
PL.	10	No14トレンチ土層状況・・・・・・
PL.	11	No 9 トレンチ土層状況・・・・・・42
PL.	12	出土土器 (2/3)43
PL.	13	出土石器表(1/1) ······44
PL.	14	出土石器裏(1/1)45
PL.	15	出土石器表(1/1)46
PL.	16	出土石器裏(1/1)47
PL.	17	出土石器(1/1)48
PL.	18	出土石器表(1/1)49
PL.	19	出土石器裏(1/1)50
PL.	20	出土原石(1/1)51
PL.	21	遺物出土状況52
PL.	22	貝の出土状況・・・・・・・52
PL.	23	出土貝類53
PL.	24	北久保経塚遠景(西側より)・・・・・・54
PL.	25	1 号経塚54
PL.	26	2 号経塚54
PL.	27	埋め戻し1
PL.	28	埋め戻し255
ÞТ	20	畑が宜し355

			負
PL.	30	埋め戻し4	56
PL.	31	埋め戻し5	56
PL.	32	発掘に参加した人々	56



I 序 説

1. 調査に至る経過

昭和48年,長崎県文化課と松浦市教育委員会により市内の分布調査を 実施した際,星鹿町牟田免池上の畑地において,黒曜石製剝片,安山岩 製剝片等が採集された。この調査結果にもとづき遺跡台帳への記載が行 なわれ,全国遺跡地図の長崎県版19-131牟田池上遺跡として収録された。

松浦市では、昭和57年度より地場産業の育成策として農業の振興をはかるため、農業の基盤整備を積極的に推進していく計画が進められている。星鹿町牟田地区においても基盤整備事業(小規模排水対策特別事業)が計画されていた。同地域内には牟田池上遺跡の所在が周知されていたが、計画区域が広範囲に及ぶことから現地調査を行なった。その結果、新に区域内約3500㎡に黒曜石の散布地が確認された。同地域は字名より佐世保崎遺跡とした。同地点は県立松浦高等学校郷土社会部の分布調査の牟田F地点にあたっていた。昭和57年8月同遺跡の発掘調査が県立松浦高等学校教諭川道寛氏によって実施された。

こんな中で牟田池上遺跡も早急に範囲確認調査を実施して遺跡の範囲 および規模をとらえ、基礎資料を作成する必要性が生じた。

2. 調 査 経 過 発掘調査は、昭和58年度の国庫・県費による補助事業として実施することになり、10月11日より32日間を調査期間にあて、調査面積 146 ㎡ を予定した。調査は県文化課の指導を受けて松浦市教育委員会が主体となって行なった。

調査は前半に畑地の掘り下げと地形測量を行ない、後半に水田地区の掘り下げを行なった。

調査期間中は多くの方々の協力を得ることができました。下記に記して御礼を申し上げます。

調査関係者 (敬称略)

調査総括 呼子 俊一 松浦市教育長

田口 正守 前教育長

浅岡新次郎 松浦市教育委員会社会教育課課長

宮本 脩平

11

次長

尾崎 寛

11

前次長

中別府泰博 松浦市教育委員会社会教育課社会教育主事補 神田 泰善 ″

調査指導 正林 護 長崎県教育庁文化課(指導主事)

調查担当 中田 敦之 松浦市教育委員会社会教育課文化財調查員

調查協力 長崎県教育委員会

山本 愛三 長崎県立長崎北高等学校教諭 辻 美次(以下地主)松田貞一 谷口リノ 川口久雄 宮田和博 久家幸敏 松永作一

作業員 山本宗市・大野ユキ子・中川サエ子・山崎シモ・小浦良子藤川京子・長谷レイ子・前田イネ子・佐次川恵美子・横田 紀世美・山口ジツエ・田中千鶴子

内業協力 穴井富美子

Ⅱ 遺跡の地理的歴史的環境

1. 松浦市の位置およ 松浦市は、長崎県北松浦半島の北部にあり、東は佐賀県伊万里市と境 び地形(Fig. 1) を接し、西は北松浦郡田平町・同江迎町、南は同吉井町・同世知原町の 各町と接している。北は遠く玄界灘を望み、伊万里湾口に面した海岸沿 いに天然の良港を抱き、海を隔てて福島・鷹島を望む位置にある。

市の所在する北松浦半島は新世代第三紀層を基盤に、現在かなり浸食の進んでいる玄武岩溶岩台地が形成されている。この玄武岩台地は伊万里市を中心に長崎・佐賀両県の北部に広く分布しており、伊万里市の国見山(776.7 m)が最も高く、北西部へ行くにしたがって低くなっている。

2. 遺跡の位置

(Fig. 2)

遺跡の所在する星鹿半島は北方向に突出した平坦な台地であり、伊万 里湾の西側を区画している。先端部東側には城山(125 m)がある。

遺跡は半島の西側海岸近くに位置し、星鹿町牟田免字池上392、393番地の畑周辺にあたっており、微高丘陵の先端部に営まれた遺跡である。標高は2.5 m から3 m ある。牟田地区の水田部は湾口の北側を女瀬ノ崎、南側を戸ノ本崎に擁かれるようにして東側奥深く発達した入江で、湾口が土砂で締め切られたために沼のようなラグーンを形成したものと思われる。いつ頃より水田に利用したのか不明である。水田部は標高2 m 、東西幅500 m 、南北幅70 m ある。ラグーン中央部には北東から南に流れ、河口付近で西に方向を変えた小川が走っている。東側には舌状に微高丘陵が入りくんでいる。

付近の字名には池渕・池田・沖田・前田・竿等の地名がみられる。これらもラグーンに関係した地名であろう。

3. 周辺の遺跡

(Fig. 3)

前述のように星鹿半島は第三紀層の玄武岩溶岩台地であり、この第三紀層を貫いて噴出した流紋岩中に含まれるものに黒曜石がある。この黒曜石が半島の至る所で出土してはいるが、(fig. 2)のように特に多く出土する地点は限られているわけで、10ケ所が知られている。当遺跡もその一つである。

いうまでもなく, 黒曜石を素材とした遺物は旧石器時代より多目的に利用され, 半島内においても大石遺跡でナイフ形石器, 台形様石器等, 大堂遺跡で細石刃核, 牟田A遺跡でも細石刃核が採集されており, この 時代に利用の始まりがあることを示している。

縄文時代の遺跡は、各地に広がっていたと思われるが、時期を決める 上器片の採集が少ない。しかし石器の採集から見ても半島の全域に分布 しているように思う。姫神社遺跡は昭和41年ウィスコン大学ゼームス・ モーアによって発掘され、轟式・曽畑式・阿高式等の多種に渡る土器と ともに、蛇紋岩製玦状耳飾・磨製石斧・打製石斧・石錘・石鏃など多く の遺物が出土しているが本報告は未刊である。また、池田遺跡からも後 期の鐘ケ崎式系の土器が出土している。

弥生時代の遺跡では、北久保A遺跡、池田遺跡があげられる。池田遺跡は前述のように縄文時代から生活の場としていたが、弥生時代に至っては箱式石棺墓、合口甕棺墓が検出されている。

古墳時代の遺跡は、須恵器片が姫神社遺跡から採集されている。また、 大崎免の小嶋には古墳が1基あるが、封土・墓石も無く扁平な板状石で 築かれた石室が残っているにすぎない。

歴史時代に至っては、前述の城山に加藤左衛門重氏が築いたと伝えられている刈萱城が、御厨氏の居城であった御厨城が里免にある。文永の役・弘安の役(元寇)にあっては星鹿半島およびその海上は合戦が行なわれた地域でもあり、半島内にはそれにまつわる地名(血田・血崎・逃浦など)がある。また、戦死者を葬った千人塚も5・6ヶ所ある。

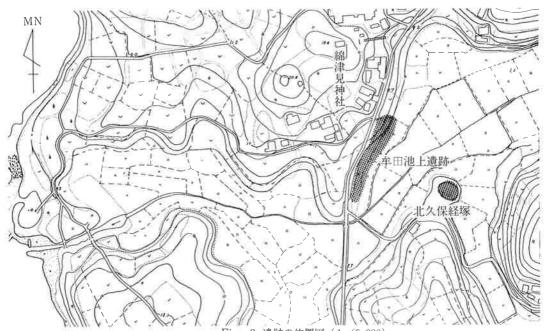
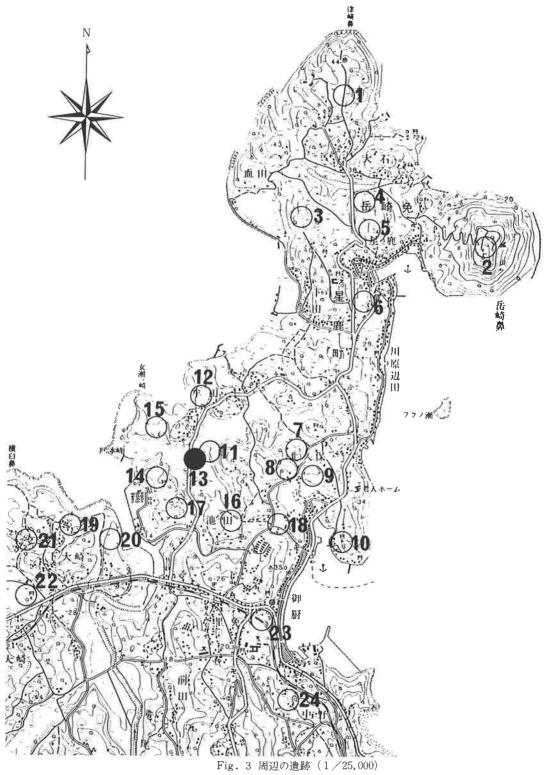


Fig. 2 遺跡の位置図 (1/5,000)



Tab. 1 周辺遺跡一覧表

	1				
番号	遺跡名	遺跡所在地	種別	出土遺物等	文献
1	津 崎	星鹿町岳崎免津崎	散 布 地	剝 片	1
2	刈 萱	〃 〃 岳崎	山 城		3
3	大 石	〃 / 追出, 石原口, 血田辻	黒曜石原産地	ナイフ形石器、黒曜石原石	3
4	大 堂	〃 〃 堤田	散 布 地	細石核,石鏃	5
5	千 人 塚	〃 〃 丸久保	墳 墓		2,3
6	下 田	// 下田免山口	黒曜石原産地	黒曜石原石, 土器	3
7	北久保A	〃 北久保免勢ノ巣	散 布 地	石鏃, 剝片, 弥生式土器	2,3
8	" C	〃 〃 浦頭	"	剝片	2,3
9	" D	" " "	黒曜石原産地	石鏃, 黒曜石原石	2,3
10	姫 神 社	ッ ッ 宮崎	包 蔵 地	縄文式土器,石斧,石鏃	2,3, 6,8
11	北久保経塚	" " 竿	経 塚		本書
12	牟 田 A	// 牟田免中尾	黒曜石原産地	ナイフ形石器, 黒曜石原石	1,3
13	牟田池上	" " 池上	"	石鏃, 黒曜石原石	本書
14	戸ノ本崎	" "	散 布 地	ナイフ形石器, 石鏃	5
15	佐世保崎	〃 〃 佐世保崎	黒曜石原産地	ナイフ形石器, 台形石器 黒曜石原石	3
16	長 蔵 坊	御厨町池田免長蔵坊	"	黒曜石原石	3
17	中ノ崎	〃 〃 中ノ崎	"	"	3
18	池 田	〃 〃 油崎,下長峰	包 蔵 地	縄文・弥生式土器, 石斧	2,6,
19	水尻A	〃 大崎免俵場	黒曜石原産地	黒曜石原石	2,3
20	∥ B	〃 〃 水尻	散 布 地	ナイフ形石器、石斧	3
21	蕨川	// // 中/辻	黒曜石原産地	黒曜石原石	3
22	小島古墳	0 0 小嶋	古 墳	円墳	1,2,
23	御厨城	〃 里免館	城址		4,7
24	中 野	〃 中野免中野	散 布 地	ナイフ形石器	1

〈参考文献〉

- 1 長崎県教育委員会 「里田原遺跡」 長崎県文化財調査報告書第38集 1978
- 2 文化庁編 全国遺跡地図42 長崎県 1976
- 3 長崎県教育委員会 松浦市遺跡地図 1982
- 4 松浦市史編纂委員会 「松浦市史」 1976
- 5 松浦市圃場整備事業にかかる埋蔵文化財確認調査の結果について 川道寛 1982
- 6 平戸学術調査報告 「平戸の先史文化」 樋口隆康・釣田正哉 1951
- 7 新人物往来社 「日本城郭大系17 長崎・佐賀」 1980
- 8 古代文化 27-4 「九州西北部の石鋸, サイド・ブレイドについて」 萩原博文・久原巻二 1975

松浦市内の県・市重要文化財

長崎県指定文化財

	かじ ヤ じょう し		
1	梶谷城址	史跡	昭和46年9月指定
2	文禄の役・松浦家供養塔	史跡	昭和46年9月指定
3	善福寺鰐口	有形文化財	昭和46年9月指定
4	庄野の六地蔵塔	有形民俗文化財	昭和46年9月指定

松浦市指定文化財

1	宛陵寺古文書	有形文化財	昭和47年3月指定
2	毘沙門天	有形文化財	昭和49年6月指定
3	懸仏	有形文化財	昭和49年6月指定
4	王島神社石板・石壺	有形文化財	昭和47年3月指定
5	星鹿ジャンガラ	無形民俗文化財	昭和47年3月指定
6	百手講	無形民俗文化財	昭和47年3月指定

Ⅲ 発掘調査

1. 調査の概要

(Fig. 4)

調査は、昭和58年10月11日から行ないまず畑地の草の伐採作業から開始し、この南北に長い畑地に平行な基準線を設定し、これと直行する線で調査区を組んだ。発掘は2m×2mを基本単位とするトレンチを主として調査を進め、調査状況に応じて周囲も拡張して行なった。調査区の名称は設定した順番にNo1~No24を付して呼ぶことにした。

調査は、畑地の北端のNo1から始め、遺跡の性格及び包蔵状態を明らかにすることを第1と考え、順次南側へと展開し、7ケ所86㎡を調査した。さらに畑地の東側に面する水田部の調査にかかり、No8~24まで計17ケ所74㎡を調査し、12月6日に終了した。調査した面積の合計は160㎡である。

2. 土 層

(Fig. 5 \sim 7)

畑地は標高 $2.5\,\mathrm{m}$ から $3.5\,\mathrm{m}$ で,東側は $1\,\mathrm{m}$ から $1.4\,\mathrm{m}$ の段差をもって水田部に,西側では市道との標高差が $4\,\mathrm{m}$ ほどある。畑地全体は西側から東側にかけてゆるやかに傾斜しており,南北 $150\,\mathrm{m}$,東西は $5\,\mathrm{m}$ から $8\,\mathrm{m}$ ほどある。

畑地には調査区を7ケ所設定した。No5からNo7畑地の南側地区のトレンチにおいては、地表面に黒曜石の剝片、原石等の散布は認められたが、基盤である砂岩礫層の直上まで後世の攪乱によって乱されており正常な土層堆積を呈していなかった。また遺物の出土もなかった。No3.4トレンチも同様に基盤である砂岩礫層の直上まで攪乱を受けており明確な包含層の発見に至らなかった。土層より数点の遺物の出土があった。調査区の中でNo1・2トレンチは拡張した地区で他の調査区にくらべて遺物が出土した地区でもある。畑地全体後世の攪乱を受けていたが、本来の包含層と思われる土層は若干残存していた。No1トレンチでは表土層、攪乱層の下に、第3層の砂岩礫を含んだ黄褐色混砂礫層がある。第4層は小指大の砂岩礫を含んだ暗茶褐色粘質土層で、特に黒曜石の原石が多い層である。No2トレンチではNo1トレンチの第3層がない状況である。

現在の水田部は標高1.4mから1.6mでほぼ平坦な状況を呈し、ラグーン中央を流れる小川に面した水田は小川と直行するように営まれ、畑地に近い水田は畑地に平行して営まれている。水田部には調査区を17ケ所設定した。遺物が出土したトレンチは畑地のほぼ中央部分にあたる地

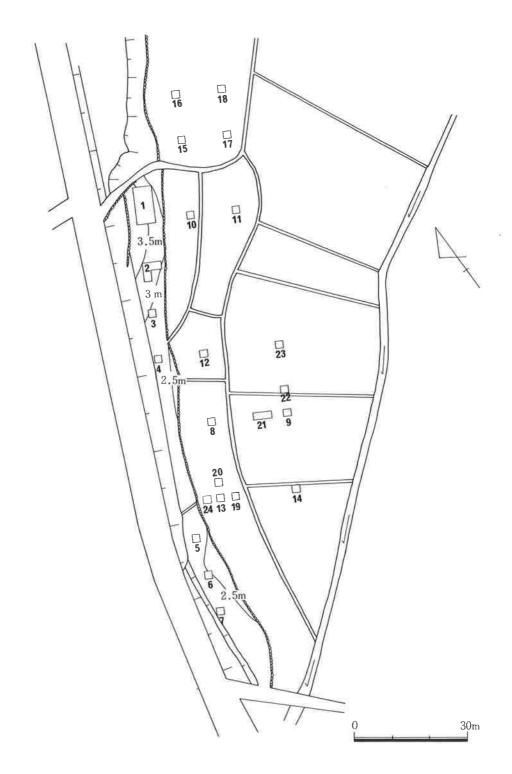


Fig. 4 調査区設定図 (1/1,000)

区でNo21・9・24・13・9である。水田部の西側一帯は畑地からの基盤 層が続いており、小川方向に向かって傾斜している。基本的な層序は表 土、床土、粘質土、貝層、砂層、混貝層、砂層となっており、自然木が 貝層、砂層より検出された。

3. 遺 構 遺跡内においては明確な遺構も検出されなかったが、わずかにNo2ト レンチにおいて第4層に長径115 cm, 短径90cmの楕円形をした深さ10cm の炭化物を含んだ遺構が検出されたが性格は明瞭でなく、これに伴う遺 物もなかったため時期的なことに関しての断定はできない。

4. 遺物の出土状況 当遺跡における土層状況はその上部が畑作によって破壊されており、 遺物の出土範囲も調査区の北側半分に限定され、特にNo1トレンチに集 中して検出された。遺物は主に黒曜石の原石が多く製品の数量はさらに 少なくなる。第4層、第5層を遺物包含層とするには稀少すぎるように 思う。

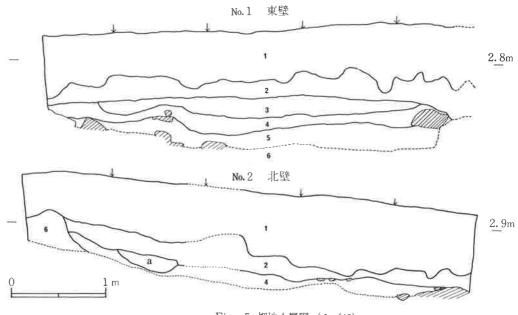
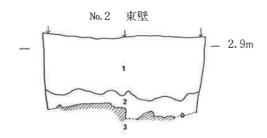
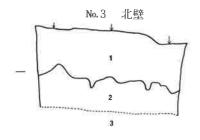
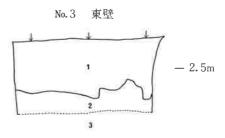


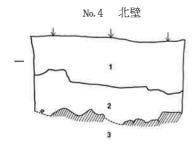
Fig. 5 畑地土層図 (1/40)

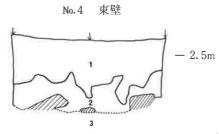
- 1 耕作土
- 2 茶褐色粘質土層(攪乱層)
- 3 黄褐色混砂礫層
- a 暗黒褐色粘質土層
- 4 暗茶褐色粘質土層 5 暗茶褐色混砂礫層 6 濁黄色砂岩礫層



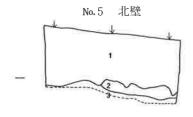








- 1 表土
- 2 茶褐色粘質土層
- 3 濁茶色砂岩風化礫層



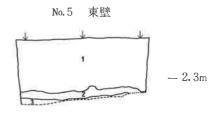




Fig. 6 畑地土層図 (1/40)

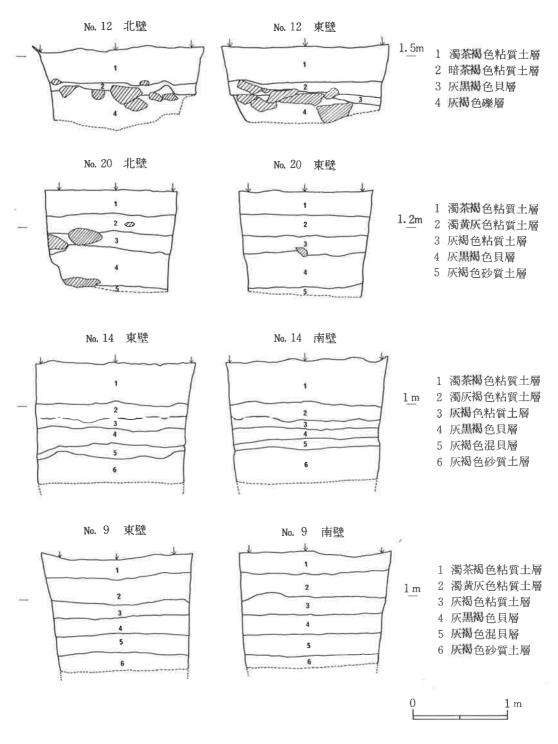


Fig. 7 水田部土層図 (1/40)

Ⅳ 出土遺物

年田池上遺跡は遺物の出土状況でも述べたように散布地的な遺跡であり,製品の出土は少なかったが,多量の黒曜石原石が出土したことは当 遺跡の性格を裏付けるものであろう。

1. 土 器

(Fig. 8)

土器はいずれも水田部貝層よりの出土で、3点のみ検出できた。1・2・3いずれも縄文後期の粗製深鉢の胴部片であろう。

1は深鉢の胴部片で、外面は粗い貝殻条痕、内面は細かな貝殻条痕調整がある。色調は淡黄茶色で胎土に石英を多く含んでおり焼成は甘い。No9トレンチ出土。2は風化ローリングが著しく、内面に細かな条痕のあとナデ仕上げをしている。焼成は普通で色調は赤茶色を呈している。No13トレンチ出土。3は外面にヘラ状のものでナデ調整しており、内面もナデ仕上げをしている。焼成は良く色調は赤褐色を呈している。胎土に石英粒と雲母片を多く含んでいる。No21トレンチ出土。

2. 石器

(Fig. 9 ~12)

石鏃は4点出土している。いずれも攪乱層よりの出土である。厚手の 剝片(2・3・4)扁平な剝片利用(1)の2つに分けられる。1は扁 平な剝片を利用し,両側辺とも丁寧な調整加工がされており,石鏃側縁 部で若干肩が張っている。先端部を欠損している。2は両側辺に丁寧な 調整加工をし,先端部も鋭利に仕上げてある。3は両側辺は丁寧に調整 加工されているが裏面に一部分礫面を残している。脚部先端はやや鋭利 に仕上げてある。脚部一端を欠損している。4は水田部No19トレンチよ りの出土で,脚部抉り最深部から欠損している。これは対象物との間に 生じる折れ方であろう。ともに牟田産の原石を利用している。

5は打面部に最大厚みをもつ加工痕のある剝片で、縦長剝片の先端部を折断し、折断した部分に主要剝離面側より加工が行なわれている。両側縁には使用をうかがわせる刃こぼれがある。6は背面に一部自然面を残し、背面右側縁には主要剝離面側から抉入状の調整加工と、背面側からの加工がある。また左側縁には鋸歯状に調整加工が施してある。先端部にも一部加工痕がある。7は平坦な調整打面を有し、先端部を折断した縦長剝片である。背面左側縁には使用をうかがわせる小さな刃こぼれがあり、右側縁には新しいリタッチがある。断面三角形で全面パティナに覆われている。8は幅広の剝片の背面左右側縁に刃こぼれがある剝片

である。9は背面が程度に自然面を残した剝片で先端部に荒い調整加工 を施した剝片鏃であろう。主要剝離面右側縁には小さな使用痕が認めら れる。白色の不純物がある。10は幅広の縦長剝片の両端を折断し、背面 右側縁に使用痕がある剝片である。11は自然面を打面とした比較的大き な縦長剝片で、背面%ほどに自然面を有する断面三角形状を呈する剝片 である。12・13ともに自然面を打面部とした幅広の剝片である。14は石 核調整の際に生じた剝片で背面は自然面に覆われている。15は背面左側 縁に1条の樋状の剝離が施された加工痕のある剝片である。16はバルブ を除去した剝片で背面は自然面に覆われている。主要剝離面側には白色 の不純物の列が平行に並んで現われている。17は背面先端部に一部自然 面を有し、左側縁に使用痕がある剝片である。18は剝片。19は背面左側 縁に自然面を有し、両端を折断された剝片である。20は自然面を打面と した剝片で、背面左側縁に使用痕がある。21は幅広の剝片の先端部を折 断した剝片である。22は平坦打面を有し、剝離面に縞模様のある剝片。 断面は三角形状を呈す。23は自然面を打面部とし3回の調整によってバ ルブを除去している剝片である。

24は拳大よりひと回り小さな円礫を利用した石核で,a 面には多方面から打面を転移させながら幅広の剝片を剝離している。b 面には自然面を有している。**25**はまずb 面の右側縁を打面部として幅広の剝片を剝離して打面部を転移させa 面において 2 条の縦長剝片を剝離している。この剝離による剝片は自然面があったと考えられる。**26**はやや角ばった礫を利用しa 面の打面調整を行なった後に,縦長の剝片を 1 条剝離している。この剝離作業では目的の剝片がえられなかったためか放棄されたものと考えられる。b 面には自然面を有する。**27**はまずa 面の剝片剝離作業の後に,b 面を打面部としてb 面の剝離作業を行なっている。全面パティナに覆われており縞模様が認められる。b 面に一部自然面を有している。

28は縦長の剝片で主要剝離面の右側縁に自然面を有している。29・30 はともに幅広の剝片である。31は平坦打面を有した縦長の剝片の背面右側縁を刃部としたスクレイパーである。一部刃こぼれが認められる。32 は一見台形状を呈した石器で上端を刃部として利用したものであろう。背面両側縁ともに荒い加工が施されている。全体にローリングを受けており稜はややシャープさに欠けている。刃部の一部を欠損。ここではスクレイパーとして取扱う。

以上、土器・石器について述べたが、当遺跡の主体をしめるのは多量の黒曜石の原石である。原石は剝片を剝離する石核の母岩となるもので、石器製作という点からは興味深いものがある。石核には剝片剝離は打面を転移して行なったもの(24・27)。剝離した面を打面として一定方向に剝片剝離を行なったもの(25)。縦長剝片のみ剝離されたもの(26)。の3つのタイプがある。剝片は縦長の剝片と横広の剝片に大別できる。出土した資料においては石核には縦長の剝片を剝離する目的のもの、横広の剝片を剝離する目的のもの、の区別があったと考えられる。25のように剝片の剝離面の観察で同一石核から横広の剝片・縦長の剝片が剝離されているのは興味深いものである。剝片の形態では6・11・14・15・16・17・23のように自然面を背面に多く残しており石核調整の初段階のもの、12・13のように打面部に自然面をもち横広のもの、5・7・10・19・21・22のように折断されたもの、などで自然面をもつ剝片などは素材となる原石の大きさが小形のものに限定される資料であろう。

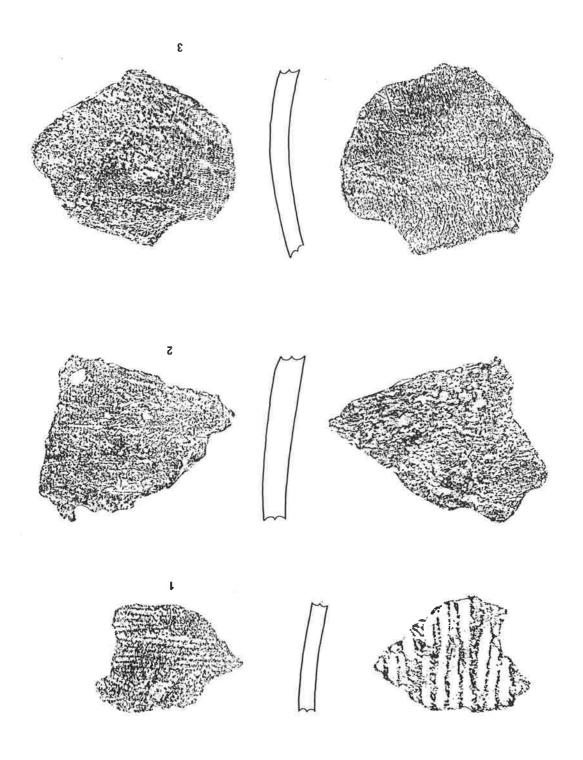
黒曜石の原石については「V 牟田産黒曜石について」の章に譲り、ここではNo1トレンチの第4層と第5層の黒曜石原石の出土状況について見てみたい。どちらの層もA類が多く第4層50%第5層70%をしめており、B類のB1とB2はほぼ同じ比率で出土している。第4層ではA類の小さな原石と、B2類のやや小さな原石が目をひく。第5層ではA類とB1類はほぼ同じ大きさの原石が出土しているが、B2類は第4層より小さな原石が出土している。さらには他の原産地からもたらされたと考えられる角礫の黒曜石の原石(腰岳産)が2点水田部より出土している。この原石はNo19・24トレンチからの出土で、No19トレンチからは同層から牟田産の原石を利用した石鏃も出土している。また黒曜石の原石とともに少量ではあるが安山岩の原石も出土していることを報告しておく。

本報告では当遺跡からはガラス状光沢がにぶく断口に褐色混入(十勝産の黒曜石と同様な色調)の原石の出土はなかったが、遺跡西側の丘陵地帯(佐世保崎遺跡)ではこの原石が採集されている。

Tab. 2 出土石器一覧表

挿図番号	地区	層位	器	種	石	材	重	さ
1	1	2	石	鏃	黒曜石	5	0.	. 8g
2	1	0		"	"		0	. 9g
3	4	2		"	"		1 9	
4	19	3		"	"		0	. 9g
5	3	2	加工痕の	のある剝片	"		1	. 8g
6	1	1		"	"	B1	5	. 2g
7	1	0	使用痕の	のある剝片	"		4	. 6g
8	1	2		"	"		1	. 8g
9	1	1	剝	片 鏃	"	B1	1	. 2g
10	1	4	使用痕の	のある剝片	"		28	. 3g
11	1	4	剝	片	"		16	. 6g
12	1	1		"	"	A	2	g
13	1	2		"	"	В1	3	. 5g
14	1	1		"	"	"	5	. 5g
15	1	2	加工痕の	のある剝片	"	"	6	. 6g
16	1	1	剝	片	"	"	12	. 6g
17	2	1	使用痕	のある剝片	"	"	2	. 25g
18	1	1	剝	片	"		0	. 7g
19	1	1		"	"		1	. 1 g
20	1	1	使用痕	のある剝片	"		1	. 7g
21	1	2	剝	片	"		1	. 4g
22	1	2		"	"		0	. 7g
23	2	4		"	"	В1	5	. 9g
24	1	1	石	核	"	"	20	. 2g
25	2	1		"	"	"	33	. 3g
26	1	5		"	"	A	19	. 8g
27	3	2		"	"	B1	15	. 6g
28	1	2	剝	片	安山岩	台	16	. 5g
29	1	1		"	"		3	. 5g
30	1	1		"	"		1	. 7g
31	19	4	スクレ	イパー	"		107	. 7g
32	24	2		"	"		36	. 2g

Fig. 8 土器実測図(2/3)



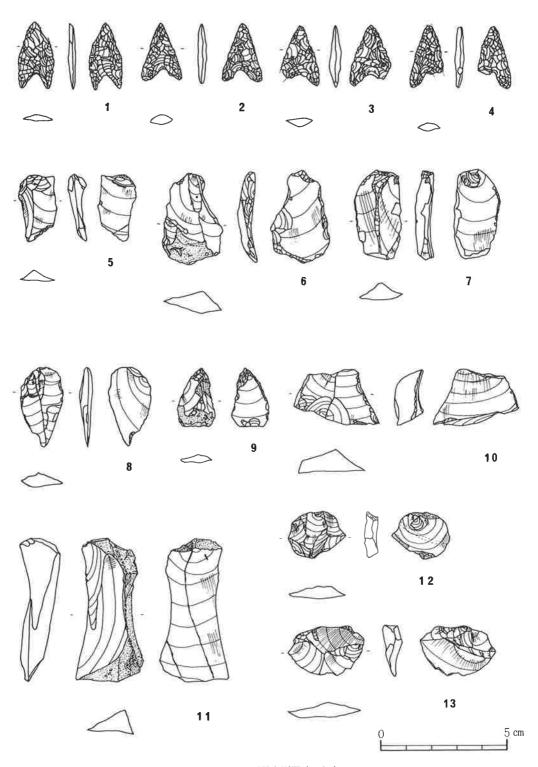


Fig. 9 石器実測図(2/3)

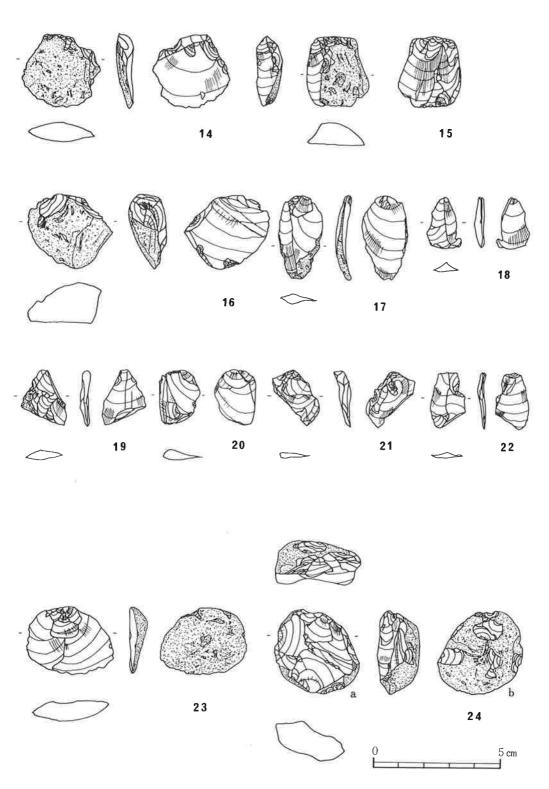
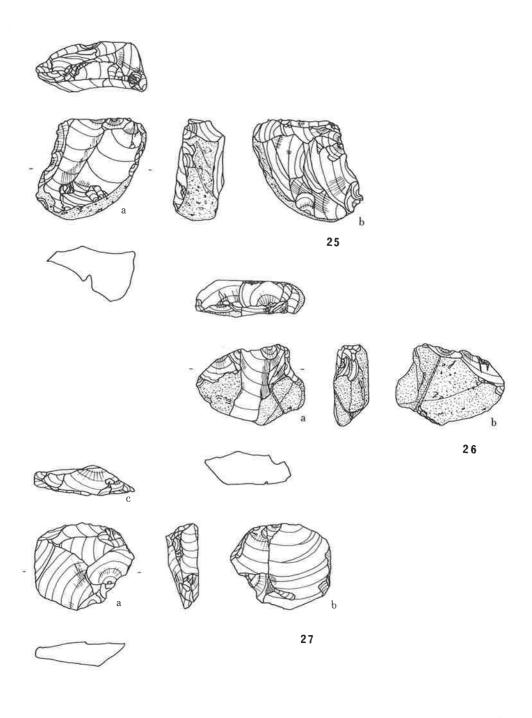


Fig. 10 石器実測図 (2/3)



0 5 cm

Fig. 11 石器実測図(2/3)

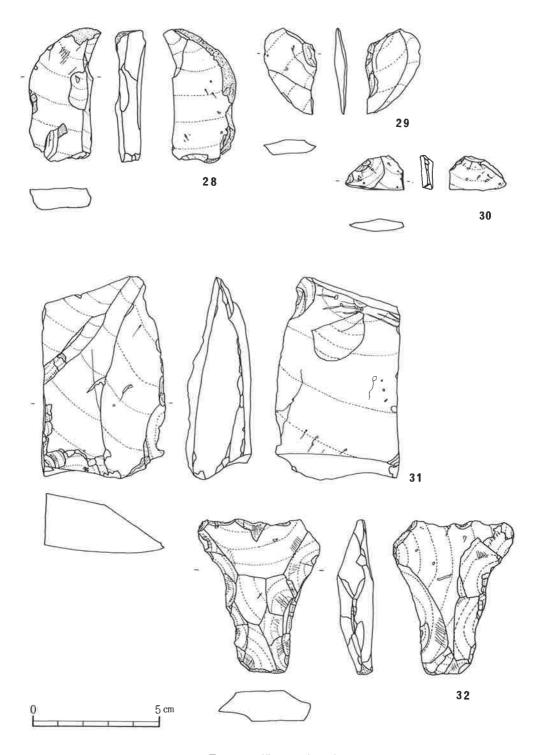


Fig. 12 石器実測図(2/3)

V 牟田産黒曜石について

黒曜石は、新世代第三紀層を貫いて噴出したマグマが急冷して生じた 火山ガラスで、ガラスの破片は切れ味が鋭く、細工がしやすい。こうし た特徴が旧石器時代からすぐれた石材の一つにされたのであろう。しか しながら、黒曜石はその産地が限定されている。長崎県内における黒曜 石の原産地は、大崎半島、亀岳、東浜、針尾島、壱岐島、宇久島と当市 の星鹿半島の7ヶ所に原産地群が知られている。(fig. 13) 各地の原産 地群内には1~10数ケ所のブロック的な原産地が確認されている。また 原産地内においてもある程度の質・色調の変化があり、同一原産地であ りながら質・色の微妙に違う黒曜石も存在している。

近年この黒曜石の原産地を推定する研究が勢力的に行なわれている。 これは黒曜石の原産地を推定することによって、当時の交流、交易、文 化、社会を把握する上で重要な資料を提供してくれるためである。福岡 県鞍手郡若宮町の都地遺跡出土の黒曜石の産地推定が行なわれ、資料は 佐賀県伊万里市の腰岳、長崎県針尾島の古里海岸産の黒曜石であろうと 推定されて、両者の化学組成がきわめて良く一致し、現在の段階では両 者の区別は困難であると報告されている。

最も近接する黒曜石の原産地として有名な産地に当遺跡より直線距離で約25km東南に伊万里市の腰岳がある。この腰岳産の原石は形状が拳大を最大とする角礫で、断口面は漆黒色を呈し、良質でガラス状光沢に富んでいる。星鹿半島一帯の原石は腰岳産の原石が角礫なのに対して、円あるいは楕円形状を呈した原石であり、角礫はみあたらない。当遺跡のNo1トレシチより163点の黒曜石の原石が出土しているので、この原石の肉眼的観察および断口観察より特徴を検討してみたいと思う。

まず原石は表面の肉眼的観察から大きく2つに分類できる。

A…表面は大きな凹凸はみられずなめらかなもの。

B…表面に大きな凹凸がみられるもの。

A類とB類の割合はAが58%,Bが42%であった。さらにB類は漆黒色を呈し,直線的な流理構造をしているもの (B1)とやや灰色を帯びた黒灰色を呈し,流理構造が著しいもの (B2) とに分けられる。B1とB2の割合はB1が57%なのに対してB2は43%とやや少なくなっている。

つぎにこれらの原石の断口を肉眼ならびに顕微鏡で観察してみると、A…色調は漆黒色を呈し、ガラス状光沢に豊み不純物は観察されない。

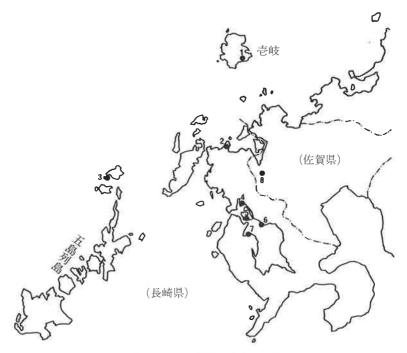


Fig. 13 長崎県内の黒曜石原産地

番号	所 在 地	備考
1	壱岐郡石田町	他に郷ノ浦町,芦辺町などにもある
2	松浦市星鹿町	半島一帯に10ケ所
3	北松浦郡宇久町	厄神鼻で採集 乳白色
4	佐世保市東浜町	淀姫産といわれるハリ質の安山岩
5	佐世保市針尾中町, 東町	県内で最も集中して産地がある
6	東彼杵郡川棚町小串	大崎半島のほぼ中間部
7	西彼杵郡西彼町白崎	通称 亀岳産
8	伊万里市二里町 (佐賀県)	腰岳西側山麓付近

Tab. 3 長崎県内の黒曜石原産地地名表

石英の微小粒が存在している。

B1…色調・光沢はA類とほぼ同じ。

B2…黒灰色を呈し、A 類よりややガラス光沢がにぶり、石英の粒も肉眼で観察でき、直線的な縞模様が観察できる。

fig. 14では原石の計測を行なって出土原石の形状の傾向をみてみた。 これによると長径 $5\,\mathrm{cm}$ 以内の原石がほとんどで特に $2\sim3\,\mathrm{cm}$ の間に集中 しているようである。さらには円礫状を示す比率の 1:1 には集中せず $1:3\sim1:2$ の間に集中している。平均は長径が $2.82\,\mathrm{cm}$,短径が $1.30\,\mathrm{cm}$

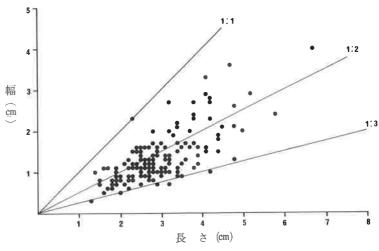


Fig. 14 黒曜石原石計測表

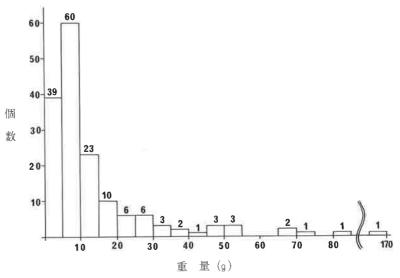


Fig. 15 黒曜石原石重量表

cmを示す。これらより原石は小ぶりのものが多くて扁平,あるいは細長いものが多いといえる。また、原石の重量を計測してみると20gまでのが多く、特に10gまでに集中し全体の62%を示している。しかし、出土の中では168gで長径6.7 cm、短径4 cmの原石も出土している。重量の平均は13.4gである。全体的に形状を見てみると拳大より小さめのものが多く、かつ扁平な原石が多数出土している。

年田池上遺跡出土の黒曜石原石は腰岳産と同じように良質で, ガラス 状光沢に豊み不純物がなく,石英小粒を含んでいるのが特徴といえる。

年田地区には年田池上遺跡も含めて、年田A遺跡・佐世保崎遺跡の3 ケ所に黒曜石の原産地(通称年田産といわれている)がある。以下に年 田産黒曜石を出土する遺跡を通して交易圏について考えてみたいと思う。

坂田邦洋氏は、九州地方の石器時代の遺跡の中から任意に94遺跡を選 んで各遺跡から出土した黒曜石について原産地の推定を行なっている。 同論文によると牟田産黒曜石の分布状況は福井7層出土を最古とし、旧 石器・縄文時代より石器に利用されており、北は韓国の東三洞貝塚から、 南は宮崎県船野遺跡より出土している。旧石器時代においては前記の船 野遺跡が230km,この半径で牟田産は鹿児島・韓国南岸まで分布する可 能性を指摘、縄文時代では東三洞貝塚の200kmを半径として南は宮崎・ 鹿児島両県の北部まで分布する可能性を指摘されている。Tab.4による と牟田産黒曜石の出土する遺跡は同論文に一部長崎県北部を入れて計22 ケ所あるがまだ前述のような分布であれば増加する可能性は十分にある と思われる。が、いずれの遺跡においても牟田産黒曜石が主体をなすよ うな遺跡は少ないと考えられている。しかし日ノ岳遺跡(Tab 4のNo8) においては、3層と2層の石質の比率を求められており、腰岳産の黒曜 石は少ないとのことである。3層では黒曜石69%、淀姫産(ハリ質安山 岩)27%で、これが2層になると利用度に変化が生じ黒曜石が88%、淀 姫産8%と淀姫産の石材利用が減少する傾向にあると指摘されている。 これはより良質なものを求めて行く過程での行為で、牟田産の黒曜石が 均一化された刃器状剝片の剝離を可能としてきたことにあると考えられ ている。

牟田産黒曜石は腰岳産黒曜石にくらべ良質であるにもかかわらず遺跡からの出土が少ないのは腰岳が山頂付近一帯に散布しているのに牟田産は溶岩台地上にあるため産出地域が狭いためにこういう現象があるのだと思われるが、日ノ岳遺跡の例のように原産地に近い遺跡ほど多く使用

されていると考えられる。牟田産黒曜石の利用については地理的な問題 や、当時の社会背景・交通・交易・文化圏などの諸要素を含めて考えね ばならない時期にきているのではないだろうか。

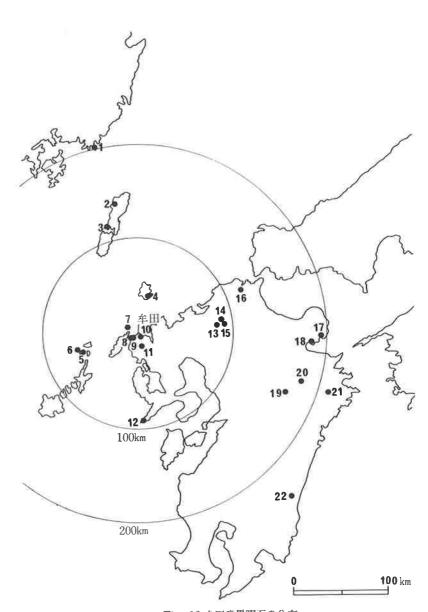


Fig. 16 牟田産黒曜石の分布

Tab. 4 牟田産黒曜石の出土遺跡

	遺跡名	所 在 地	時 期		
1	東三洞貝塚	韓国釜山市	縄文前・中・後期相当		
2	志多留貝塚	上県郡上県町	縄文後期		
3	ヌカシ	下県郡豊玉町	縄文中期		
4	原の辻	壱岐郡芦辺・石田町	旧石器		
5	殿 崎	北松浦郡小値賀町	縄文中・後期		
6	玉 石 鼻	北松浦郡小値賀町斑島	旧石器		
7	中 山	平戸市度島町	"		
8	日ノ岳	北松浦郡田平町	*		
9	中 瀬	北松浦郡田平町	"		
10	姫 神 社	松浦市星鹿町	縄文前期		
11	福井	北松浦郡吉井町	旧石器		
12	協 岬	西彼杵郡野母崎町	縄文後期		
13	峠 山	福岡県筑紫野市	旧石器		
14	萩 原	"	"		
15	野 黒 坂	"	"		
16	黒崎貝塚	福岡県北九州市八幡	縄文後期		
17	稲荷山	大分県杵築市	縄文早期		
18	早 水 台	/ 速見郡日出町	旧石器・縄文早期		
19	政所馬渡	〃 直人郡萩町	"		
20	稲荷岩陰	/ 大野郡朝地町	縄文前期		
21	聖嶽	南海部郡本匠村	旧石器		
22	船 野	宮崎県宮野郡佐土原町	"		

(坂田論文に一部加筆)

- 注1 北松浦郡小値賀町教育委員会 塚原博氏の御教示による。
- 注2 二宮修治・佐藤貴義・小島淑子・大沢真澄 1980 「V 都地遺跡出土黒曜石の産地について」 若宮・宮田工業団地関係埋蔵文 化財調査報告第3集 福岡県教育委員会
- 注3 坂田邦洋 1982 「九州産黒曜石からみた先史時代の交易につい て(I)」 別府大学考古学研究室 賀川光夫先生還暦記念論集
- 注4 坂田邦洋 1983 「九州産黒曜石からみた先史時代の交易について(Ⅱ)」 別府大学紀要 第24号
- 注5 下川達彌・立平進 1981 「日ノ岳遺跡」 長崎県立美術博物館

〈参考文献〉

- 1 長崎県教育委員会·電源開発株式会社 「針尾人崎遺跡」 長崎 県文化財調査報告書第60集 1982
- 2 長崎県教育委員会·電源開発株式会社 「串島遺跡」 長崎県文 化財調査報告書第51集 1980
- 3 福江市教育委員会 「白浜貝塚」 福江市文化財調査報告書第2 集 1980
- 長崎県教育委員会 「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急調査報告書Ⅲ」 長崎県文化財調査報告書第64集 1983
- 5 外海町教育委員会 「出津遺跡」 外海町文化財調査報告書第1 集 1982
- 6 外海町教育委員会 「出津遺跡」 外海町文化財調査報告書第2 集 1983
- 7 平戸市教育委員会 「度島町湯牟田中山遺跡」 平戸市の文化財8 1977
- 8 大村市黒丸遺跡調査会 「黒丸遺跡」 1980

VI 牟田池上遺跡の **貝類から見た考察** 山本愛三

1. 序

基盤整備事業に伴う範囲確認調査として、昭和58年10月11日~同年12 月6日の間,長崎県松浦市牟田池上遺跡の調査が行なわれ,松浦市教育 委員会社会教育課文化財調査員 中田敦之氏より資料の分析の依頼を受 けた。この機会を与えて下さった同氏、及び松浦市教育委員会の諸氏に 謝意を表するものである。

2. 本遺跡の所在

fig.17, fig.18に示すように本遺跡は長崎県松浦市星鹿町牟田免池 上に所在し、この付近にはfig.18に示すように1.津崎、2.刈萱、3. 大石, 4. 大堂, 5. 千人塚, 6. 下田, 7. 北久保A, 8. 同C, 9. 同D, 10. 姫神社, 11. 北久保経塚, 12. 牟田A, 13. 本遺跡, 14. 戸 ノ本崎, 15. 佐世保崎, 16. 長蔵坊, 17. 中ノ崎, 18. 池田, 19. 水尻 A, 20. 同B, 21. 蕨川, 22. 小島古墳, 23. 御厨城, 24. 中野と多く の遺跡が点在し、この一帯は黒曜石の産出地としてよく知られた所であ る。詳細は中田により本文に記されている。

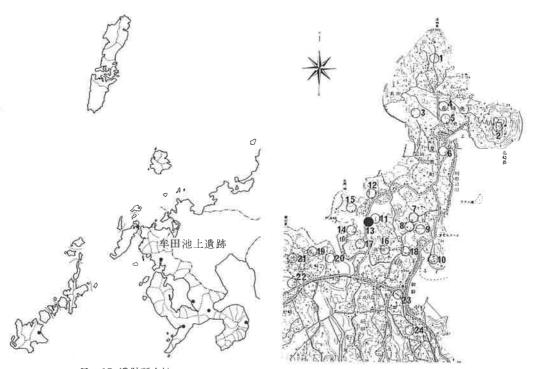


Fig. 17 遺跡所在地

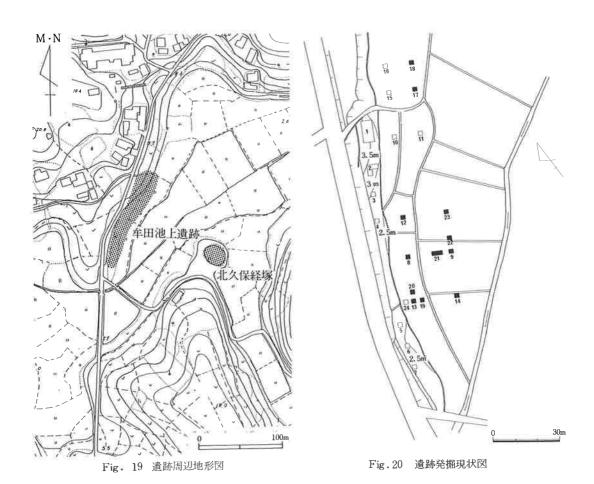
Fig. 18 遺跡周辺立地図

3. 発掘状況

fig. 19が発掘地域であり、発掘はfig. 20に示すように、24ケ所トレンチが設定されて行なわれた。貝資料として摘出されたのは、No.9・No.13・No.21のトレンチである。土器の出土も悪く、No.9・No.13・No.21のトレンチより各 1 点ずつが発見され、中田により貝殻条痕文土器、縄文後期と断定されている。貝層が発見されたトレンチは、No.8・No.9・No.12・No.13・No.17・No.18・No.19・No.20・No.21・No.22・No.23の各トレンチである。なお No.19トレンチでは、松の木とその果実が発見されているのは興味深いものである。

4. 本遺跡の貝類

ヒメカニモリガイ等の産出状況を見る限り、大中小比成長にそった個体や中には、食料に不適な微小個体まで産出するので、自然貝層ではないかとの疑問をもったが、Tab.5に示すように、各種の生息域を示す貝が集積していること、散布地が極限されていることから貝塚であると断定せざるを得ない。



-30-

	種名	9号	13号	21号	生息条件	内湾	外i
1	Norodatis.sieboldii (R EEVE, 1846) メカイアワビ						
	N. discus (REEVE, 1846) クロアワビ			1	潮~20m, 岩礁		
		1		4	潮~20m, 岩礁		
	Tectus (Tectus) pyramis (REEVE, 1780) ギンタカハマ Lunella coronata corensis (RÉCLUZ, 1853) ズガイ			1	潮~10m, 岩礁		
	Batillaria Zonalis (B RUGUIÉRE, 1792) イボウミニナ	3	11	1	潮,岩礁		9
	B. multiformis (LISCHKE, 1869) ウミニナ	5	138	4	湾奥,潮下部,泥底	0	
	Cerithideopsilla cingulata (GMELIN, 1791) ヘナタリ	11			潮下部,泥底	0	
	Cerithium kobelti (DUNKER, 1877) コオロギガイ		14	1	潮,砂泥底,河口	0	
	C. subscalata (GOULD, 1794) ホソコオロギガイ		6		潮~20m, 岩礁	0	
	Proclava pfeifferi (DUNKER, 1877) ヒメカニモリガイ	1	410		潮, 岩礁	0	
	Glossaulax didyma (R'ODING, 1798) ツメタガイ	15	546	4	潮~30m,内湾,細砂底	0	
	Reishia clavigera (KÜSTER, 1860) イボニシ			1	潮~50m, 細砂底	0	
				1	潮~20m, 岩礁		
	Reticunassa festiva (Powys, 1835) フラムシロガイ	1	21		潮~20m, 砂礫底		
	Niotha livescens (PHILIPPI, 1849) ประการ์		2	1	潮~20m, 砂礫底		
	Dentalium octangulatum (DONOVAN, 1840) ヤカドツノガイ			5	潮~50m,細砂泥底	0	
	Spondylus cruentus (REEVE, 1868) チリボタン	3			潮~20m, 岩礁		
	Mimachlamy nobilis (REEVE, 1852) ヒオウギ			1	潮~20m, 岩礁		
	Pecten albicans (S CHRÖTER, 1802) イタヤガイ			3	10~80m, 砂泥底		
	Monia umbonata (GOULD, 1861) シマナミマガシワガイモドキ	2			潮~300m, 貝殻に着生		(
	Pretostrea imbricata (LAMARCK, 1819) カキツバタ			1	10~50m, 岩礫底		
	Saxostrea echinata (QUOY et GAIMARD, 1836) ケガキ	23			潮,岩礁		
	Crassostrea gigas (THUNBERG, 1793) マガキ	130		1	塩度の低い岩礁、潮	Ō	
	Eucrassatella japonica (DUNKER, 1882) チシオガイ			1	潮~100m, 砂礫底		
	Anodontia stearnsiana (O YAMA,) イセシラガイ			2	潮~10m, 泥底	0	
	Trapezium liratum (R EEVE, 1843) ウネナシトマヤガイ	30			内湾奥の汽水潮, 岩礫	0	
	Chama iostoma (CONRAD, 1837) カネツケザル	3			潮~20m, 岩礁		C
	Circe scripta (LINNÉ, 1758) シラオガイ			1	潮20m, 砂底		C
	Meretrix lamarckii (DESHAYES, 1853) チョウセンハマグリ			2	潮~20m, 砂底		C
	Dosinorbis japonicus (R EEVE, 1850) カガミガイ			1	潮~50m, 砂底		C
	Cyclina sinensis (GM ELIN, 1791) オキシジミ	4		3	潮~20m, 泥底	0	
	Amygdala philippinarum (ADAMS et REEVE, 1850) アサリガイ			1	潮~20m ,砂礫泥	0	
	Anomalocardia squamasus (LINNÉ, 1758) シオヤガイ	1		1	潮,泥底	0	
	Mactra chinensis (PHILIPPI, 1846) バカガイ			1	潮~20m, 細砂底	0	
	Solen strictus (GOULD, 1861) マテガイ			2	潮,細砂泥底	0	
	Mya arenaria oonogai (MAKIYAMA, 1922) オオノガイ			1	潮,砂泥底	0	
	Clypeaster japonicus (DODERLEIN,) タコノマクラ			1	2~100m, 岩礫底		Ċ
	計	233	1228	47		17	1
内 湾 性(%)		(84.5) 197	(97. 2) 1194	(57.4) 27		(47.	. 2)
	外 洋 性 (%)	(15.5) 36	(2.8)	(42. 6) 20		(52.	. 8)

Tab.5 牟田池上遺跡の貝類を中心とする組成表

5. 貝類より見た本 然環境の復元

Tab. 5 に示すように、94%を越す内湾性の貝類が発見されること、 遺跡形成時の自 星鹿半島全域で現世の貝を採集して廻ったがこれら内湾性貝類を現時点 で採集できなかったことから、本遺跡周辺は当時深い湾入の内湾であっ たと考えられる。星鹿半島最高峰 125m の城山より眺望するとき、この 湾入は星鹿半島を東西に発達し、かなりの面積を示していることがわか る。湾奥にはイボウミニナ、シオヤガイ、ウネナシトマヤ等が、淡水の まじる所ではマガキ、川口部にヘナタリが生息し、湾口に向って砂質を 増し、周辺には松林が点在していたと考えられる。また、湾口部には砂 しが発達し、チョウセンハマグリが生息し、それより北部は岩礁海岸で サザエ・アワビ等も生息していると考えられる。

6. 今後の問題点

異質の貝層と思われる層が、No.9・No.14・No.22トレンチで発見されて いる。更に本遺跡より少しはなれた所で、表土直下に貝層のある地点が 発見される。本遺跡が湿田地にあること、層状がみだされず平行堆積し ていることから花粉分析の最良の場所といえ、カーボン測定により、正 確な絶対年代を割り出し、海進海退の追跡、自然環境の変遷を追跡する ことが望まれる。

WI ま と め

牟田池上遺跡の調査は、昭和58年度の文化財保存整備事業として実施 した範囲確認調査である。

遺跡自体については中心地と思われる北側畑地の一部がすでに後世の 攪乱によって破壊されており、全容を伺い知ることができなかったが、 黒曜石の原石が多量に出土したことは牟田地区における黒曜石原石の出 土傾向の一端を明らかにしたことは大きな成果であった。

牟田産の黒曜石原石は、旧石器時代より各地で石器製作の母岩として多く利用されていることは明らかであったが、この牟田産黒曜石原石の利用の背景には、当時の文化・社会・地理的な諸要素をも加味して考えねばならない問題である。同一原産地内でも質・色の微妙に違う原石も存在していることより、この同一原産地内での化学分析資料の充実が望まれる。分析資料の増加により黒曜石製の遺物の産地同定も行なわれるであろう。

水田部より3点の縄文土器の出土があったが、周辺にはこれと同時期の遺跡の確認がなく、細部に渡っての調査は将来にゆだねる事になった。

最後に32日間の調査ではあったが、地主の方々・作業員のみなさんにも御協力を頂き、無事発掘調査を終えることができた。また、本報告書刊行にあたっては、多くの方々よりご協力・ご助言を賜わりました。記して感謝を申し上げます。

付 北久保経塚

松浦市星鹿町北久保免字竿に所在し、牟田池上遺跡の水田部を流れる 小川を挟んで東側約110 m の対面する位置にある。

当経塚は舌状の台地先端部の末端の標高7.5 m の地点に2基ある。1 号経塚は直径約2.5 m の円形状で周囲に玄武岩系の礫を利用して積み重ねられている。その上に本来は土をかぶせてあったのが年月が経つにつれマウンドの土が流れたものと思われる。マウンドの高さは約80cmほどである。2 号経塚はやや小ぶりで直径2 m の円形状で高さは約50cmほどである。

経塚は「末法思想における危機感から仏教教典を弥勒出世の世まで伝え残すことを目的として、書写した経典を土中に埋納した遺跡である。」とあり、当経塚も経典が埋納されている可能性は十分にあると思われる。経塚は11世紀代から近世まで盛んに営まれていた。その背景には信仰にもとづいて意識的に埋納されたことを考えなければならず当牟田地区に所在していることは、地区の歴史を知る上で大変貴重なものである。

市内にはもう一ケ所経塚の所在が知られている。当北久保経塚南方約5kmの地点,御厨町板橋免字教塚に所在している。さらには志佐町庄野免王島神社に伝わる石壺2点は,ともに滑石製で,平蓋・盛蓋をもち平底で円筒状を呈している。器の外面には経文らしきものが書かれているが判続はむずかしい。これらの資料は本市の歴史を解明する上で貴重な文化財である。

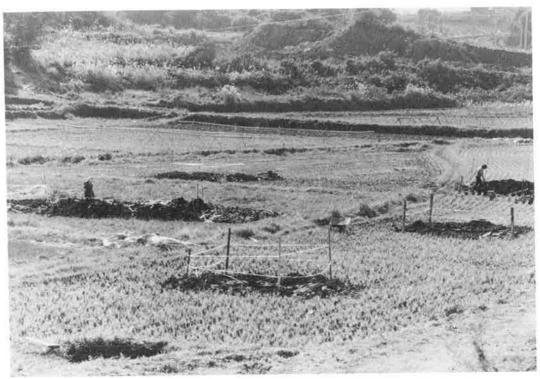
注1 ニューサイエンス社 「日本考古学小辞典」 1983

PLATES





牟田池上遺跡遠景 (東側より)



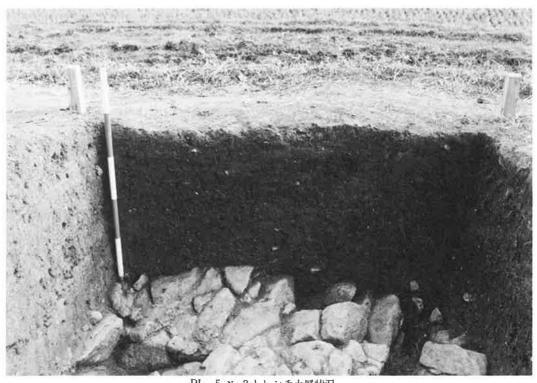
PL. 2 調査風景



PL. 3 調査風景



PL. 4 No.1トレンチ土層状況



PL. 5 No. 2 トレンチ土層状況



PL. 6 No. 4 トレンチ土層状況



PL. 7 No. 5トレンチ土層状況



PL. 8 No.12トレンチ土層状況

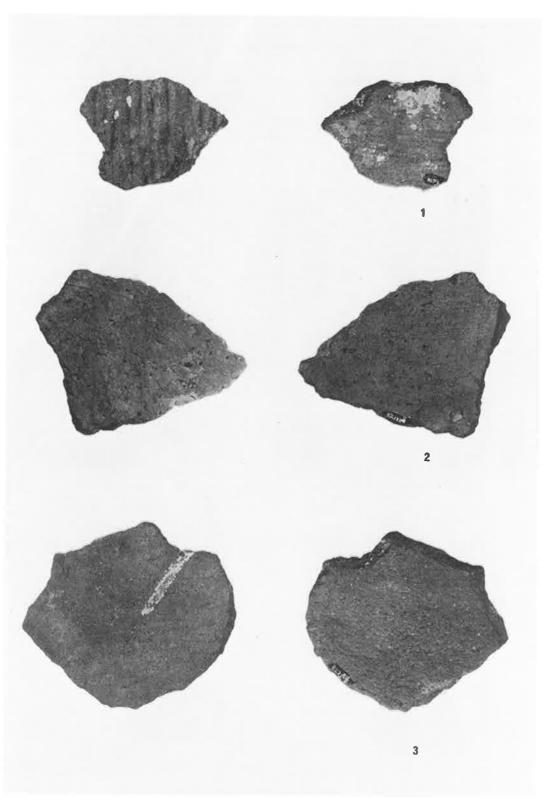


PL. 9 No. 20トレンチ土層状況

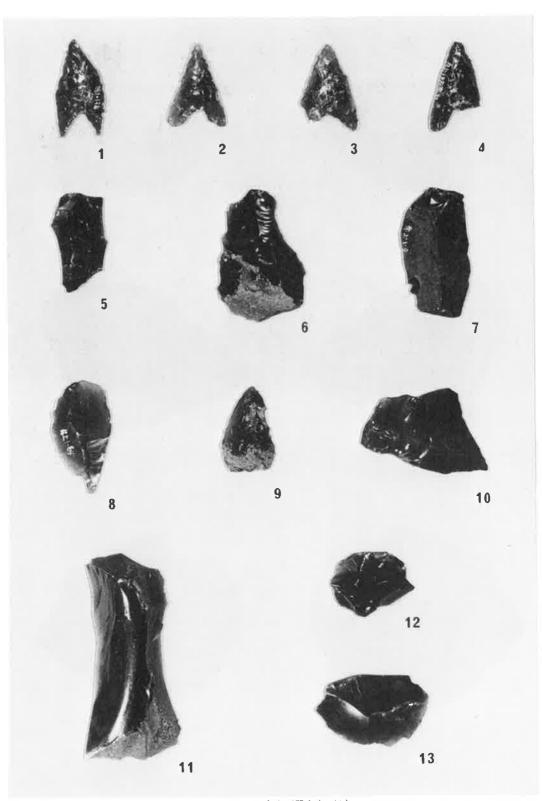


PL. 10 No.14トレンチ土層状況

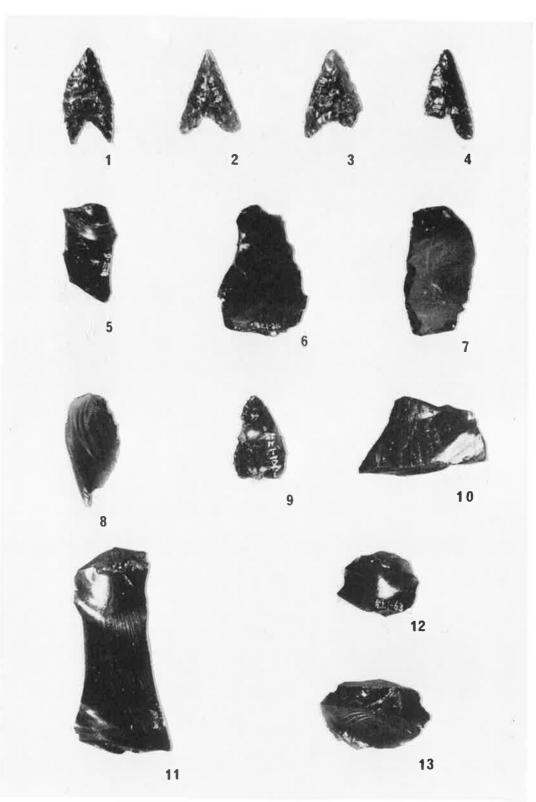




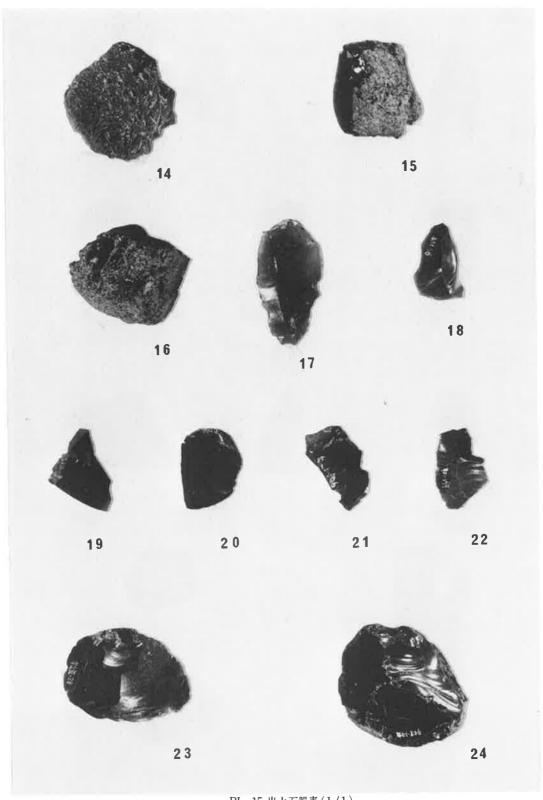
PL. 12 出土土器(2/3)



PL. 13 出土石器表(1/1)



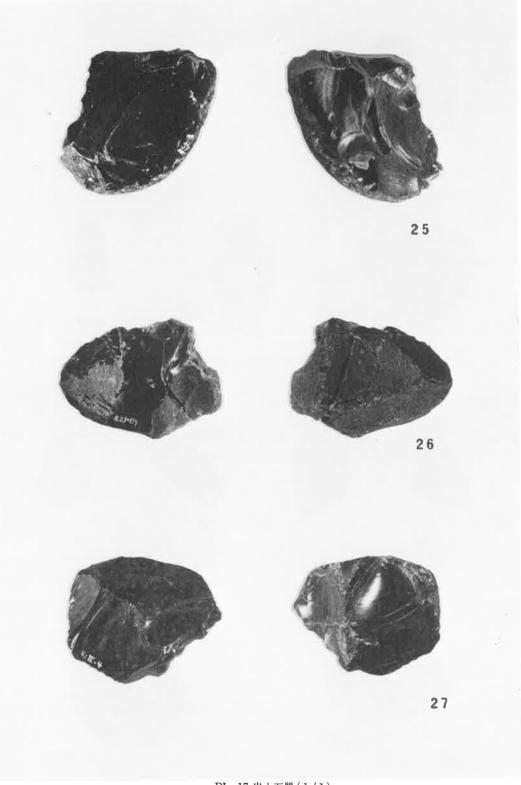
PL. 14 出土石器裏(1/1)



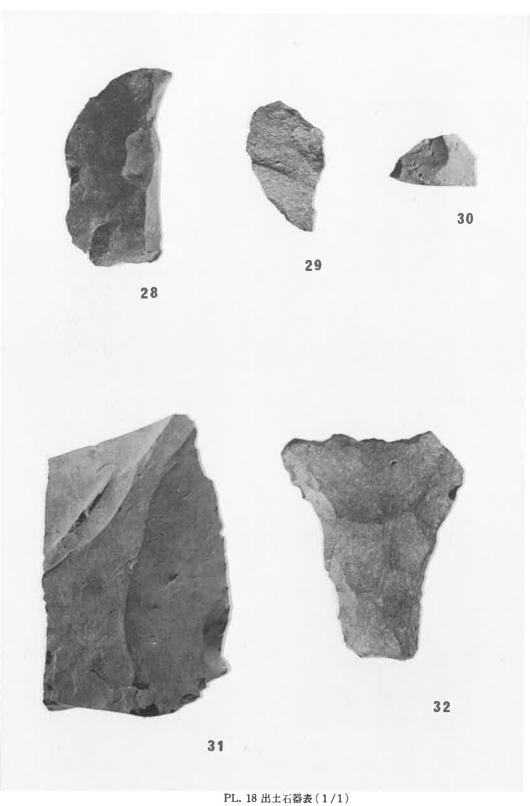
PL. 15 出土石器表(1/1)

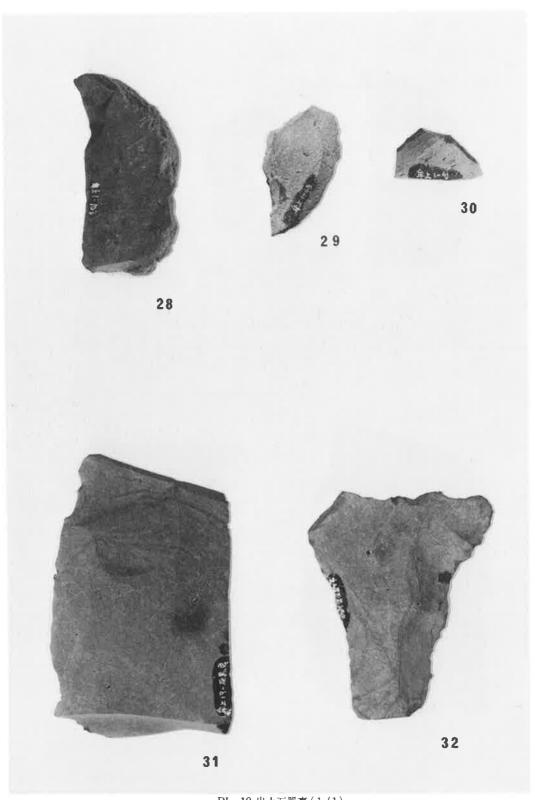


PL. 16 出土石器裏(1/1)

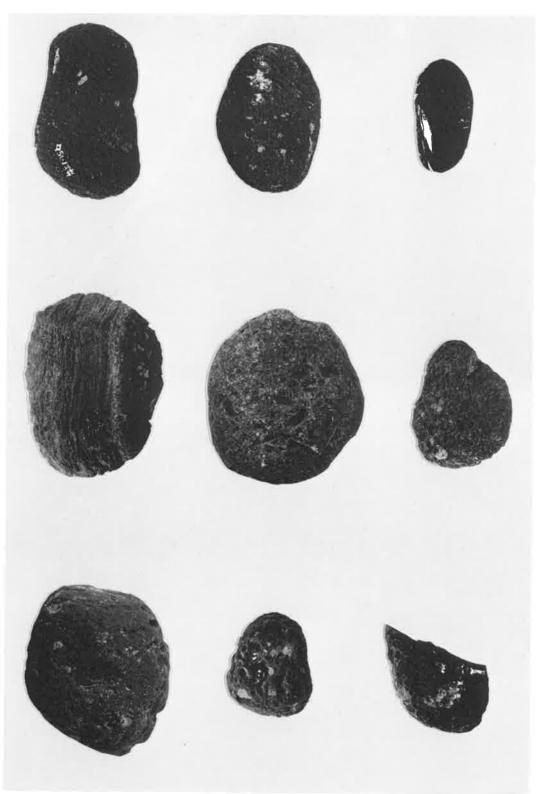


PL. 17 出土石器(1/1)





PL. 19 出土石器裏(1/1)



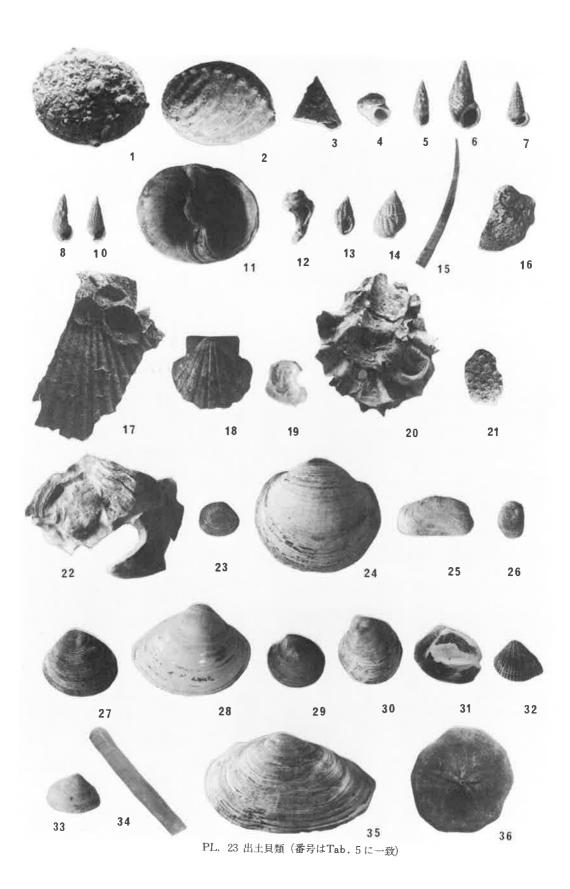
PL. 20 出土原石(1/1)



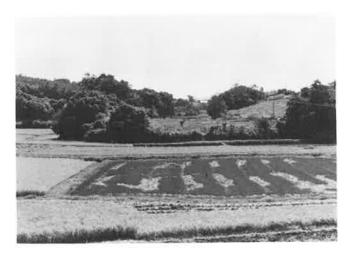
PL. 21 遺物出土状況



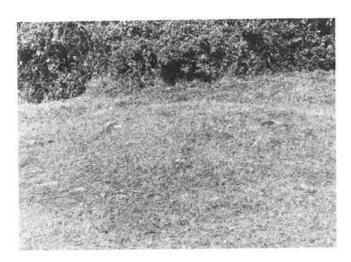
PL. 22 貝の出土状況



-- 53 --



PL. 24 北久保経塚遠景 (西側より)



PL. 25 1 号経塚



PL, 26 2 号経塚



PL. 27

1. 調査区の水を抜いたあとに人頭大の石を入れる。



PL. 28

2. パネルの上で数日乾燥させた土を入れる。



埋め戻し

PL. 29

3. 数回にわけて乾燥させた土を入れそ のつどつき固める。



PL. 30 4. 数回にわけつき固めたあとに耕作土 を入れる。



埋め戻し



PL. 31 5. 調査区の埋め戻し終了。

PL. 32 発掘調査に参加した人々。

牟田池上遺跡

昭和59年3月31日

発 行 松浦市教育委員会 長崎県松浦市志佐町里免365

印刷 有限会社 S K 印刷



